

2022.3.11

Dance Base Yokohama



**2023年3月11日(土)～12日(日)に
愛知県芸術劇場で DaBYダンスプロジェクト 鈴木竜×大巻伸嗣『Rain』を発表
バレエダンサーの米沢唯が出演
～出演ダンサー募集につき、DaBY登録ダンサーオーディションを開催～**

この度、Dance Base Yokohamaによるダンスプロジェクトとして、DaBYアソシエイトコレオグラファーの鈴木竜と現代美術作家の大巻伸嗣がタッグを組んで、サマセット・モームによる短編小説『雨』から着想を得た新作『Rain』の創作に挑みます。出演者に、新国立劇場バレエ団プリンシパルの米沢唯が決定しています。

本プロジェクトは、2021年12月に上演した「鈴木竜トリプルビル」に続き、DaBYと愛知県芸術劇場の連携プロジェクト第二弾として、2023年3月に愛知県芸術劇場 小ホールにて初演を迎えます。

現在、本作に参加するダンサーを募集しています。クリエイションは年間を通して行うため、出演者には2022年度より活動を開始する「DaBY登録ダンサー」となっていただくことを前提としています。現在オーディションへの参加申込を受付中ですが、本発表に伴い書類申込み締切日を2022年3月21日(月・祝)まで延長します。詳細は、次ページのオーディション情報をご覧ください。

| | |
|-----|--|
| 日 程 | 2023年3月11日(土)、12日(日) 時間未定 |
| 会 場 | 愛知県芸術劇場 小ホール 愛知県名古屋市東区東桜1-13-2 B1 (愛知芸術文化センター内) |
| 料 金 | 未定 |
| 主 催 | Dance Base Yokohama、愛知県芸術劇場 |

愛知県芸術劇場



STAFF

プロデューサー：唐津絵理 (愛知県芸術劇場/Dance Base Yokohama)
マネージングディレクター：勝見博光 (Dance Base Yokohama)
プロダクションマネージャー：世古口善徳 (愛知県芸術劇場)
照明デザイン：高田政義 (RYU)
照明施工・オペレート：上田剛 (RYU)
ドラマトゥルク：丹羽青人 (Dance Base Yokohama)
制作：田中希 (Dance Base Yokohama)

〈登録ダンサーオーディション募集概要〉

| | |
|-----|--|
| 日 程 | 2022年3月26日(土) |
| 会 場 | Dance Base Yokohama 神奈川県横浜市中区北仲通5-57-2 KITANAKA BRICK & WHITE BRICK North 3階 |
| 申 込 | 書類審査締切：2022年3月21日(月・祝) 実地審査：2022年3月26日(土) |
| 詳 細 | 下記に掲載された申込フォームより必要情報を記入のうえ、ご応募ください。 https://dancebase.yokohama/info/5447 |

PROFILE



©Takayuki Abe

【振付】鈴木竜 Ryu Suzuki

Dance Base Yokohama アソシエイトコレオグラファー。横浜に生まれ、英国ランベール・スクールで学ぶ。これまでにアクラム・カーン、シディ・ラルビ・シェルカウイ、フィリップ・デュクフレ、インバル・ピント/アブシャロム・ポラック、エラ・ホチルド、平山素子、近藤良平、小尻健太など国内外の作家による作品に多数出演。振付家としても横浜ダンスコレクション2017コンペティションIで「若手振付家のためのフランス大使館賞」などを史上初のトリプル受賞するなど大きな注目を集めており、作品は国内外で多数上演されている。

DaBYでは、2020年度にはDaBYコレクティブダンスプロジェクトに取り組む。また2021年に『When will we ever learn?』『never thought it would』『Proxy』を創作し、愛知県芸術劇場にて初演、KAAT神奈川芸術劇場にて再演。2022年度には国内外での再演を予定している。



©paul barbera / where they create

【美術】大巻伸嗣 Shinji Ohmaki

岐阜県出身。「存在」とは何かをテーマに制作活動を展開する。環境や他者といった外界と、記憶や意識などの内界、その境界である身体の関係性を探り、三者の間で揺れ動く、曖昧で捉えどころのない「存在」に迫るための身体的時空間の創出を試みる。

主な個展に、「存在のざわめき」(関渡美術館/台北,2020)、「まなざしのゆくえ」(ちひろ美術館, 2018)、「Liminal Air Fluctuation - existence」(Hermèsセーヴル店/パリ,2015)、「MOMENT AND ETERNITY」(Third Floor-Hermès/シンガポール,2012)、「存在の証明」(箱根彫刻の森美術館,2012)、「ECHOES - INFINITY」(資生堂ギャラリー,2005)。あいちトリエンナーレ(2016)、越後妻有アートトリエンナーレ(2014~)、アジアパシフィックトリエンナーレ(2009)、横浜トリエンナーレ(2008)などの国際展にも多数参加。近年は、「freeplus × HEBE × ShinjiOhmaki」(興業太古匯/上海,2019)、横浜ダンスコレクション「Futuristic Space」(横浜赤レンガ倉庫,2019)、「Louis Vuitton 2016-17 FW PARIS MEN'S COLLECTION」(アンドレシトロエン公園/パリ,2016)などでも作品を発表する。



©Kenji Azumi

【出演】米沢唯 Yui Yonezawa

愛知県出身。2010年にソリストとして新国立劇場バレエ団に入団。

2011年ピントレー『パゴダの王子』で主役デビュー。2013年プリンシパルに昇格。2004年ヴァルナ国際バレエコンクールジュニア部門金賞、2006年ジャクソン国際バレエコンクールシニア部門銅賞など。2014年中川鋭之助賞、2017年芸術選奨文部科学大臣新人賞、2018年舞踊批評家協会新人賞、2019年愛知県芸術文化選奨文化賞、2020年芸術選奨文部科学大臣賞、橘秋子賞優秀賞受賞。

愛知県芸術劇場の自主事業にも多数参加している。うち、劇場プロデュース作品としては、2004年ダンスオペラ2『青ひげ公の城』、『戸外にて』(振付：アレッシオ・シルヴェストリン)、2005年ダンスオペラ3『UZME』(振付：笠井勲)、2005年「あいちダンスフェスティバル」にて大島早紀子作品『ユークロニア』にクリエイションから参加して、初演に出演している。

Dance Base Yokohama

ダンスを中心とするパフォーマンス作品の創作を目的に、地域や文化芸術を愛する方のために開かれたダンスハウスとして2020年6月横浜を拠点に設立された。ワークショップや実験的なトライアウト公演の企画・運営、海外アーティストやカンパニー招聘、ダンスアーカイブ事業などを行い、振付家やダンサーのみならず、さまざまな分野のクリエイター、批評家、研究者、プロダクションスタッフ、そして観客の交流拠点をめざしている。

アーティストックディレクターを唐津絵理（愛知県芸術劇場エグゼクティブプロデューサー）が務め、ダンス、パフォーマンス領域全体の活動環境の整備、アーティスト・ダンサー・スタッフの権利擁護、観客・市場拡大施策等を展開する。

2020年「ダンスを社会にひらく」コンセプトが評価され、グッドデザイン賞受賞。2021年ロゴマークが東京TDC賞2021に入選。



©Takayuki Abe

唐津 絵理（愛知県芸術劇場エグゼクティブプロデューサー/DaBYアーティストックディレクター）

お茶の水女子大学文教育学部舞踊教育学科卒業、同大学院人文科学研究科修了。舞台活動を経て、1993年より日本初の舞踊学芸員として愛知芸術文化センターに勤務。2000年に所属の愛知県文化情報センターで第1回アサヒ芸術賞受賞。2014年より現職。2010年～2016年あいちトリエンナーレのキュレーター（パフォーマンス・アート）。大規模な国際共同制作から実験的パフォーマンスまでプロデュース、招聘した作品やプロジェクトは200を超える。

文化庁文化審議会文化政策部会委員、全国公立文化施設協会コーディネーター、企業の芸術文化財団審査委員、理事等の各種委員、ダンスコンクールの審査員、第65回舞踊学会大会実行委員長、大学非常勤講師等を歴任。講演会、執筆、アドバイザー等、日本の舞台芸術や劇場の環境整備のための様々な活動を行っている。

著書に『身体の知性』等。